

広島市感染症週報

広島市感染症対策協議会・広島市感染症情報センター

コメント

1 手足口病

定点当たり2.23人の報告があり、増加しています。例年夏季に増える傾向があり、乳幼児が集団で生活する保育園や幼稚園などでは、特に注意が必要です。手洗いの励行、オムツの適切な処理、タオルの共用を避けるなど、感染予防対策を心がけましょう。

2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点当たり2.68人の報告があり、多い状況です。感染経路は、飛沫感染や接触感染で、2～5日の潜伏期を経て、突然の発熱、のどの痛み、全身倦怠感、苺舌などの症状が現れます。咳エチケットの励行や手洗いなどの感染予防対策を心がけましょう。

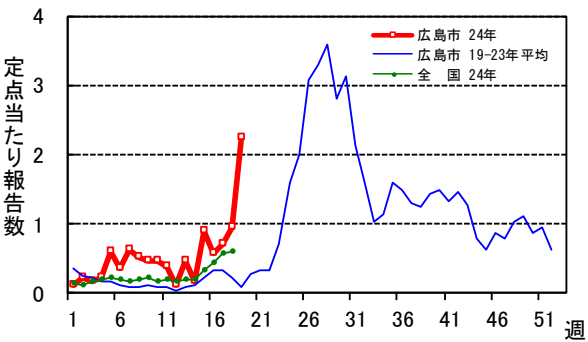
3 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)

定点当たり1.46人の報告がありました。引き続き、基本的な感染予防対策に取り組みましょう。

4 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

2件の報告があり、今年の累計は12件になりました。(次ページ参照)

手足口病の流行状況



定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年(注)	発生記号
インフル	インフルエンザ	4	0.11	0.83		小児科	ヘルパンギーナ	2	0.09	0.07	
	新型コロナ(COVID-19)	51	1.46				流行性耳下腺炎	1	0.05	0.06	
小児科	RSウイルス感染症	22	1.00	0.49		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	0.05	
	咽頭結膜熱	10	0.45	0.42			流行性角結膜炎	14	1.75	0.33	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	59	2.68	0.96		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	0.03	
	感染性胃腸炎	97	4.41	4.29			無菌性髄膜炎	-	-	-	
	水痘	9	0.41	0.11			マイコプラズマ肺炎	4	0.57	-	
	手足口病	49	2.23	0.09			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	伝染性紅斑	-	-	0.10			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.14	0.09	
	突発性発しん	8	0.36	0.34							

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減
微増減	↖	↙	前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減
横ばい	→	←	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ/COVID-19定点数(小児科定点を含む)	35
小児科定点数	22
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

先週(第18週)は、ゴールデンウィークの休診の影響で、報告数が少なくなっている可能性があり、今週(第19週)と適正な比較ができないことから、発生記号は表示していません。

全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	4	34	80歳代・3人、90歳代・1人
5	アメーバ赤痢	1	1	50歳代
5	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	2	70歳代
5	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	12	40歳代、70歳代
5	梅毒	5	47	10歳代・1人、20歳代・1人、40歳代・2人、50歳代・1人

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

		インフル エンザ	(C O V I D - 1 9) 新 型 コ ロ ナ	R S ウ ィ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 咽 頭 炎	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘル パン ギー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	細 菌 性 髄 膜 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	マイ コ プ ラ ズ マ 肺 炎	クラ ミ ジ ア 肺 炎	(感 染 性 胃 腸 炎 (ロ タ ウ ィ ル ス)
報告数	第15週	45	57	51	8	58	88	4	19	-	7	1	1	-	9	-	-	-	-	-
	第16週	33	60	55	12	51	123	1	12	-	8	1	-	-	15	-	-	-	-	-
	第17週	13	68	33	7	75	157	7	15	-	7	2	-	1	10	-	-	-	-	-
	第18週	6	55	28	8	33	86	2	21	-	5	-	-	-	19	-	-	-	-	-
定点 当 た り	第19週	4	51	22	10	59	97	9	49	-	8	2	1	-	14	-	-	4	-	1
	第15週	1.32	1.68	2.43	0.38	2.76	4.19	0.19	0.90	-	0.33	0.05	0.05	-	1.13	-	-	-	-	-
	第16週	0.97	1.76	2.62	0.57	2.43	5.86	0.05	0.57	-	0.38	0.05	-	-	1.88	-	-	-	-	-
	第17週	0.38	2.00	1.57	0.33	3.57	7.48	0.33	0.71	-	0.33	0.10	-	0.13	1.25	-	-	-	-	-
全国	第18週	0.18	1.62	1.27	0.36	1.50	3.91	0.09	0.95	-	0.23	-	-	-	2.38	-	-	-	-	-
	第19週	0.11	1.46	1.00	0.45	2.68	4.41	0.41	2.23	-	0.36	0.09	0.05	-	1.75	-	-	0.57	-	0.14
	第17週	1.07	3.22	1.73	0.70	4.65	4.61	0.18	0.58	0.03	0.31	0.09	0.05	0.02	0.63	0.01	0.02	0.16	-	0.02
	第18週	0.45	2.27	1.26	0.51	2.69	2.59	0.11	0.61	0.02	0.22	0.08	0.04	0.01	0.44	0.02	0.01	0.14	-	0.01

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	発症年月日	検査材料	検出病原体
その他の呼吸器疾患	発熱(39.6℃) 肺炎 鼻炎	0	2024/03/11	咽頭拭い液	ヒトメタニューモウイルス

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

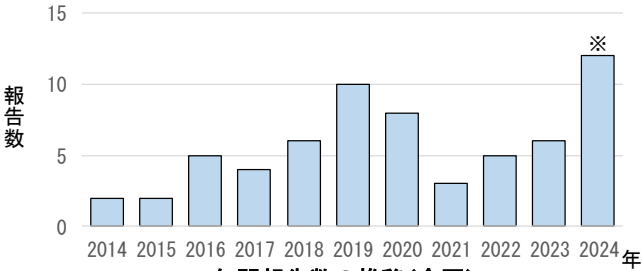
【参考】劇症型溶血性レンサ球菌感染症について

溶血性レンサ球菌は、一般的には急性咽頭炎などを引き起こす細菌ですが、稀に引き起こされることがある重篤な疾患として、劇症型溶血性レンサ球菌感染症が知られています。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症の初期症状は、四肢の痛み、腫れ、発熱、血圧低下などです。発病から病状の進行が急激で、数十時間以内に軟部組織壊死や多臓器不全を引き起こし、ショック状態から死に至ることもあり、「人食いバクテリア」と呼ばれることもあります。

子どもから大人まで広範囲の年齢層で発症しますが、特に30歳以上の大人に多い傾向です。

年間報告数の推移(広島市)



年間報告数の推移(全国)



※広島市は2024年第19週、全国は2024年第18週現在の報告数
いずれも2023年、2024年の報告数は速報値

広島市における報告数は、年間10件以下で推移していましたが、今年は既に12件の報告がありました。全国でも、昨年は統計をとりはじめた1999年以降で最多の949件(速報値)が報告されており、今年は昨年を上回るペースで報告されています。

感染予防策としては、手洗い、咳エチケット、すり傷などの清潔な処置があげられます。また、四肢の痛みや腫れが急速に悪化するなどの症状がある場合は、速やかに医療機関を受診することが大切です。

【参考】

劇症型溶血性レンサ球菌感染症とは(国立感染症研究所)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/341-stss.html>

国内における劇症型溶血性レンサ球菌感染症の増加について(国立感染症研究所)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/group-a-streptococcus-m/2656-cepr/12594-stss-2023-2024.html>

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/infectious-disease/>



【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp